

看護学研究科

修士課程 看護学専攻

● 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	母性支援看護学特論	少子化時代におけるリプロダクティブヘルスやウィメンズヘルス看護における看護対象と健康課題について理解し、その対処について学修するとともに、それらを補足する医学、心理学、社会学などの関連領域との間で派生する専門的な知識についても学修します。また、セクシャリティやリプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスにおける健康問題に関わる看護支援について専門的立場から学修します。さらに、周産期の母子や家族における現象や対象の理解、支援能力の向上をめざして、周産期特有な概念や理論、妊娠・出産の支援体制や周産期医療体制における、現代社会が抱えている健康問題とその動向や施策について日本及び海外の論文をクリティカルに分析し、新しい母性支援の方略について学びます。また、周産期の看護倫理に基づき、ヘルスカウンセリングやコンサルテーションが可能となるよう具体的な方法についても学修します。
	小児支援看護学特論	少子化時代に必要不可欠な一人ひとりの子どもに対する看護実践を考える上で必要な各種の理論について、その具体的な適用とその限界について検討します。また小児の成長発達と生活環境に関する今日の課題について理解を深めるとともに、さらに小児保健の今後の動向とあり方について国際的動向も踏まえて検討します。
	地域支援看護学特論	ワーク・ライフ・バランスと健康支援、産業保健における就労支援・育児支援等について検討するとともに、子どもへの看護支援については、健康な子どもから特別な支援を要する子ども(気になる子ども、障がいをもつ子ども)まで、様々な健康レベルにある子どもの育児支援、またその背景としての家族、地域、職場を対象として考察を加えます。生活の場や社会環境まで、広く多面的に課題を捉え、少子化時代に考えられる様々な課題の解決に向けた看護支援について学びます。
	学校保健学特論	望ましい学校保健のあり方・進め方について、現在存在する学校保健の諸問題及び課題を、学校保健組織活動、学校保健・安全計画、家庭・地域・職場との連携、学校教育との関係等の種々の側面を通して考察し、国際的動向(ヘルシースクール、セーフティスクールなど)も考慮に入れながら、それらの解決に必要な看護職としての専門的知識・技術について考究します。
	地域保健政策特論	調査・研究により求められたエビデンスを保健福祉政策として具現化する場合の課題の捉え方やその行政的対応の可能性、また行政計画とするか、予算化事業として考えるか、そのあり方と実際について検討します。また、リスク・アプローチとポピュレーション・アプローチの選択如何により、モデルも手続きも異なるため、その概念の相違と、疫学と行政の視点からみたプリシード・プロシードモデルも含めた、住民QOL向上のための政策化への手続きと基本的な概念化について検討します。具体例として、教員が対応した地方自治体における、独自調査結果に基づく保健医療基本計画策定の例なども含めて、自治体での母子保健関係及び少子化対応関係部分の構成のための例示として議論します。
	母子フィジカルアセスメント	健やかな次世代を育むために妊婦・小児の健康上の問題の全人的・包括的なアプローチが重要です。母性の面からはハイリスク・異常妊娠褥婦の管理を適切に行うにはセルフケアが重要であり、リスクに応じた支援が必要となります。そのような支援ができる能力を養うことを目的とします。また自ら症状を訴えられず、急性疾患の多い小児に対して、発達段階に応じたフィジカルアセスメントを的確に行うことは患児の状態の正確な判断・迅速なケアに直結します。高度の専門的知識と技術をもつ看護師の養成を目的とし、子育て支援を医療面においてサポートする人材となれるよう学修を深めます。
	発達支援心理学	生涯発達を通じた心理学的支援について幅広く学修します。まず、ライフサイクルの各時期における発達の特徴を取り上げ、各時期に出現しやすい発達心理学的な問題を学びます。次に、アセスメント、支援計画の立案、支援、評価の仕方について学び、神経発達障害、抑うつ、不安といった子どもの特性や保護者の特性を取り上げ、事例検討等を通し各特性に応じた発達支援について学修します。発達支援の具体的な技法として認知行動療法を取り上げて学修します。
	遺伝疾患対処論	最近遺伝情報解析の技術の進歩につれて、医療、特に小児医療における遺伝疾患の重症性が増加しています。看護師はこれら遺伝疾患を有する患者・家族の一番近いところに位置しています。遺伝疾患を持つ患者・家族のQOLを向上させるにはどのような方法が用いられるべきかなどを、自分自身で考えていく能力を獲得するための基礎知識、応用技術などを系統的に学びます。これら講義のキーワードとして遺伝倫理、遺伝カウンセリング、遺伝疾患診療チーム、遺伝教育などが該当します。
	母子感染防止論	妊婦の感染症と母子感染症の疫学を踏まえた感染病態について理解し、現行の感染防止対策について学ぶとともに、その課題について学修します。それらの課題に対して妊産褥婦のセルフケアの観点から研究的な立場に立って検討します。

● 授業科目名等は変更になる場合があります。

看護学研究科

修士課程 看護学専攻

●授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門演習科目	母性支援看護学演習	実践や演習を通じ、周産期の母子の健康状態、ライフサイクル各期の女性の健康状態を判断し、必要な援助のためのアセスメント技法や看護援助技術を身に付けます。事前学修を踏まえて、研究領域である周産期関連施設(産婦人科外来、産科・婦人科病棟、NICU/GCU)、助産所、女性支援施設(女性センター、男女共同参画センター)等、特殊外来(思春期外来、更年期外来、不妊外来)の演習前見学実習を行います。その際、母性看護や助産の領域のみで解決できない課題については可能な限り明示します。見学実習を行った結果から、妊娠期からの個別・集団ヘルスカウンセリング技法について模擬事例を用いて学修を深めます。
	小児支援看護学演習	子どもを取り巻く環境を考えると、小児看護学領域の範疇のみでは検討の難しい課題が数多く存在します。様々な関連研究の中からそれらの課題をとりあげ、小児支援看護学特論で学んだ理論的な検討や子どもを取り巻く環境に関する課題の検討結果を理解した上で、国内外の関連文献をレビューし、自らの研究課題につなげます。
	地域支援看護学演習	少子化とともに進行する超高齢化を含め、住民の地域生活を支えるものとして地域包括ケアシステムの構築(医療、介護、予防、住まい、生活支援・福祉サービスの融合)が推進されています。演習では、特論の学修に基づき、様々な健康レベルにある子どもと家族、また地域全体を支援するための包括的なケアシステムの構築を目指して検討を行います。学生が関心を持つ研究テーマを中心に課題と考える事象について、研究及び実践についての文献レビュー、多行政機関や医療機関、福祉施設、企業等、複数機関が関わる地域ネットワーク構築の実際を学ぶためのフィールド演習を行ったうえで、ディスカッションを通して深め、課題解決のための支援を明らかとするための研究のフレームワークについて演習を通じて明確化します。
	学校保健学演習	国内及び諸外国の学校保健に関わる課題について、まず文献研究により検討します。また、国内における子どもたちの健康と安全を確保するのに解決すべき問題について文献検討を通じて明らかにします。抽出された問題は、フィールド調査を行うことにより実態を把握し、問題点を考察し、それらの結果を各自がプレゼンテーションして、履修者全体でディスカッションすることにより、各自が最終的な修士論文のテーマに繋げることができるようにします。
	地域保健政策論演習	各種健康指標及び少子化対応関係の可能性のあるデータを収集して、そのデータを検討することにより、何らかの看護・保健モデルの構成が可能であるか、検討します。それを民間政策のモデルと考えるか、行政政策化モデルとして提唱することが可能か、検討した後、いずれかのモデルとして具体的に活用の方を考へて政策化し、アプローチの枠組みを提示するとともに看護保健政策を発表することを通じて、演習を行う。また少子化時代の支援施策とはいえないが、行政的対応について理解するための演習題材として、住民健康リスクに対する地方自治体の具体的な対応例として、教員が処理に関与した事例(農林水産省による埋設農薬の流失問題、水源河川のクロム汚染など)を通じて、行政的対応の考え方の例として活用し演習します。
	母子・地域看護支援演習	少子化社会における看護支援の実際に関して、事例を通じて検討することにより、取り組むべき課題に含まれる一連の過程に対する対処のあり方について、必要な看護支援を自らの中で組み立てられるよう、その実際を学修します。
研究基礎科目	看護研究論	看護研究の考え方と過程について、質的研究・量的研究それぞれを別々のものとして学ぶのではなく、研究としてより広範性・専門性の視点から、看護理論形成のためのグラウンデッドセオリー・アプローチやエスノグラフィーによるアプローチ、看護ケアを評価するための尺度の構成、あるいは生態学的な保健医療福祉の概念形成などについても視野を広め検討します。質的研究・量的研究それぞれの研究過程について、経験科学としての考え方から研究計画、対象の取り上げ方と分析の可能性などについて学修し、研究結果の洗練化の過程、プレゼンテーションのあり方についても検討します。
	保健統計学特論	看護研究における尺度の構成に用いる因子分析の考え方と解釈、さらに具体的な尺度構成の基礎について学ぶとともに、同じく外的基準がない場合の重相関分析・クラスター分析、また外的基準がある場合の重回帰分析や判別分析、そのほかに近年必要性が考えられる分散・共分散分析、パス分析など、各種の多変量の解析方法について、SPSSを用いて具体的に看護関係の例題を解析しながら学修します。また質的変数の場合の分析に必要な属性相関の解析や信頼性係数、あるいは進度に応じてバイタルサイン等の時系列の分析に関連して、周期分析の方法と考え方についても学修します。
研究科目	看護学特別研究	学生の選択する看護研究テーマにもとづいて、指導教員が研究計画の作成と倫理的配慮、調査や研究の実際、分析と研究論文の作成、プレゼンテーションなどの一連の過程について指導を受けつつ学修します。

●授業科目名等は変更になる場合があります。

入学試験概要

出願手続

合格発表・入学手続

試験場の案内

研究指導内容

Q

&

A